

渡辺議員の「視力検査について」のうち、「3歳児健診時の屈折検査機器導入の経過と結果について」のご質問からお答えいたします。

子どもの視力発達の遅れの原因となる屈折異常や斜視の早期発見を目的に、令和5年4月から屈折検査機器による二次検査を行っております。

その結果、全体の約9.1パーセントに当たる15人が精密検査の対象となり、現在までに10人が眼科医を受診し、うち4人に弱視や斜視などの異常が認められております。次に、「就学時健康診断における屈折検査の導入について」のご質問についてお答えいたします。

屈折検査は、幼児の弱視・斜視等を早期発見し、適切な治療に繋げるために有効な検査であることから、検査機器導入前の幼児が対象となる、令和6年度及び7年度の就学時健康診断での検査の実施につきまして、市長部局と協議して参りたいと考えております。

次に「市民の生命と安全を守るための防災対策について」のうち、「災害時に孤立した時の安否確認について」であります。災害の種類によって対応は異なりますが、避難を要するような大規模災害の発生直後は、指定避難所への避難者以外の市民の安否確認を行うことは、現実的には難しいと考えております。

次に「自宅から市道までの除雪について」であります。住宅敷地や私道の除雪については、管理されている方が行うものと認識しており、現状といたしましては、ご近所同士や自治会における相互扶助が特に重要であると考えております。

次に「道路状況が悪い場合の救急車の対応について」であります。積雪により救急車が現地へ向かうことが困難と予測される場合につきましては、消防車も出動し、消防隊員が現地から救急車までの搬送をフォローするなど、速やかな救命活動を最優先として救急対応に当たっていると伺っております。

次に「自治会に対する除雪費の支援について」であります。市道の除雪につきましては、本市の業務であるため、助成は考えておりませんが、私道につきましては、先進事例を調査し、研究を進めて参ります。